

都市構造可視化の横展開

～可視化に向けた大きな壁～



宮崎県川南町

1.庁舎内のGISの更新にむけて

きっかけは、課税用・統合型GISの更新時期が近づいたこと

- ・ 現行GIS（課税用・統合型）のシステム管理者は、税務課
- ・ 次期GISは、オンプレからクラウドに移行される予定
- ・ 税務課としては統合型の部分は、電算部門に移管したい
思惑

そもそも、誰がどんな目的で統合型GISを使っているのか？

（色んな資料を見てもGISを活用しているととても思えない...）

アンケート調査を行った。

◆結果◆

- ・ 用途、所有者を検索するぐらいにしか使っていない...。
- ・ 使っても距離、面積の測定ぐらい...。

2.なぜ有効活用されていないのか

統合型GISが必要か？

GISを使って、住民の範囲抽出したり、政策立案に向けた分析に

使っているのは、私ぐらい...

電算担当としては、統合型GISの必要性に疑問を抱かざるを得ない

若しくは、もっと簡易なシステムに変更してもいいのでは...一方で...

GISで何ができるか 知らないのでは？

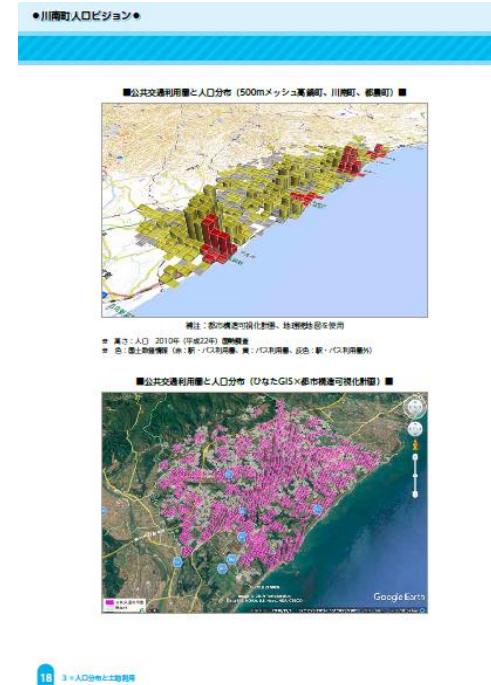
そういえば、現行のGISが導入された際に、システムの説明会さえ

開かれた覚えがない...

3.これまでの活用事例

長期総合計画・地方版総合戦略・人口ビジョンの基礎資料

令和3年に制定した第6次長期総合計画、第2期地方版総合戦略・人口ビジョンの基礎資料として、i都市交流会議で得た手法を使用。



補注：ひなたGIS、東京大学空間情報科学研究センター「地域分析に有用なデータの提供」、都市構造可視化計画、地理院地図
©2018 ZENRIN、Image©2019 TerraMetrics Data SIO, NOAA, U.S. Navy NGA, GEBCO
Image Landsat / Copernicus、Google Earth を使用

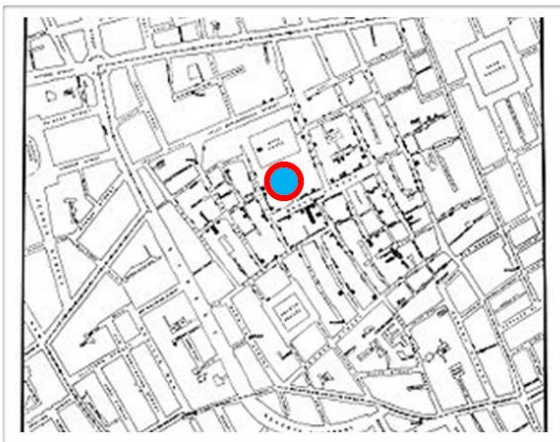
4.活用事例の横展開

DX推進チーム会議でテーマに

令和3年度に組織したDX推進チーム会議（毎週火曜、午前9時から1時間。各課から代表1名＋有志。計20名で組織）にて、GISを使った都市構造の見える化について、共有を図った。

そもそもGISって何か？

地図を使った解析 1854年 Jone Snowのコレラ図



本町のGIS提供ベンダーから
も

資料を提供してもらい、歴史
から、具体事例を交えたGIS
についての基礎知識を共有

5.DX推進チームでの勉強会

2Dから3Dへ



平面だけでは掴み切れない要因が3Dでは見えてくる事例を紹介。

※公共交通利用圏と人口分布＋町の歴史的な成り立ち

6.仲間を増やす

次の展開は

私がこの研修に参加したのも、そもそもは上司の進め。

今回、庁舎内でもDXについて関心の高いメンバーに紹介することができた。

次なる研修参加者を見つけ、少しずつ見える化を広めていきたい。



全国からの入植者が築き上げた、開拓の町。

